入魂

頭取メッセージ

取締役頭取　大道良夫

日本の経済情勢は、マクロの観点では持ち直しの動きが見られますが、大企業が回復すれば、徐々に中堅・中小企業に及んでいくという従来型のパターンが大きく変化し、社会と経済の大転換の時代を迎えたと言えます。当行は地域経済との相互信頼関係を更に強固にしつつ、「3つのブランド戦略」をはじめ、持てる力を最大限発揮し、地域密着型経営の推進とソリューション提案の実践に努めてまいります。

「地域社会」との共存共栄を目指して

国内の金融界に目を転じますと、この5年間で11件の地域銀行の経営統合が行われるなど、地方銀行の経営にとって「経営体力の強化」が喫緊の課題であることを示しています。これは当行にとりましても例外でなく、「経営体力の強化」を図り、より強靱な体質で持続的な成長を果たすために、役職員が一丸になって、全力をあげて取り組んでまいります。

幸い、当行には広域地銀として古くから培ってまいりました「人と人とのつながり」「地域からの信頼」「店舗網」の強みがあり、今後ともこれらの「強み」を最大限活用し、地域密着型経営の展開、実践を図り、平成19年4月に制定したCSR憲章で掲げました**「地域社会との更なる共存共栄」**を図ってまいります。

“商流”を起こす・つなぐ

当行は、「新世紀第3次長期経営計画」（平成19年4月～平成22年3月）において、“にじみ出し戦略”の展開による“商流”の実現に取り組んでまいりました。“商流”とは、物流や金銭の流れに、人縁・地縁、情報をも含めた幅広いビジネスの流れであります。決して新しい言葉ではありませんが、大転換の時代であるからこそ、今日的な新しい“商流”を起こし、つないでいくことで、お取引先の成長と繁栄に、今後も注力してまいります。また、滋賀県は京阪神から東海におよぶ経済圏の中核的位置に在り、その地域に本拠を置く唯一の地方銀行として、資金や情報の流れである“商流”の「要」の役割を果たすことにより、地域全体の経済力の底上げに取り組んでまいります。

「第4次長期経営計画」

地域密着型経営の展開、実践に向けての“工程表”として、「第4次長期経営計画」（計画期間:平成22年4月～平成25年3月）をスタートさせました。

基本ビジョンを**「～NEXT　STAGEへの挑戦～“対話力”強化による更なる共存共栄を目指して」**とし、「高い付加価値を提供できる金融サービス業」としての態勢を一層強固にして競合他行との差異化を図り、地域での存在感を高めてまいります。

地域密着型経営の展開･実践に向け、お取引先との相互理解を図るための「対話力」の更なる強化に取り組み、お取引先を一層“熟知”し、ニーズを的確に把握するとともに、課題の解決や付加価値の高いサービスの提供に努めます。

具体的には、以下の**「3つのブランド戦略～知恵と親切の提供～」**を展開してまいります。

1.当行の店舗網の活用とビジネスマッチングをはじめとしたソリューション提案により、お取引先の企業価値向上を強力に支援する**「ネットワークのしがぎん」**
2.近畿の地方銀行で唯一海外に支店（香港支店）を有する優位性を活用し、お取引先のアジアビジネスの展開を強力に支援する**「アジアに強いしがぎん」**
3.「環境金融」の取り組みを一層強化し、「環境と経済の両立」に向けた「環境ビジネス」の展開を強力に支援する**「CSRのしがぎん」**

キーワードは「入魂」

さて、今年のキーワードを「入魂」といたしました。「入魂」という言葉に込めた思いは、

1.今次長期経営計画を着実に展開･実践していくことにより、地域密着型経営の推進に、魂を込めて取り組む**「地域密着型経営への“入魂”」**
2.地域密着型経営を推進するために行員一人ひとりがソリューション提案能力の向上と情報力の強化に魂を込める**「自己研鑽への“入魂”」**
3.地球温暖化防止と生物多様性保全は、その重要性がますます増しており、CSR憲章で定めた「地球環境との共存共栄」に向けて魂を込めて取り組む**「地球環境保全への“入魂”」**

の3つです。このキーワードのもと、全役職員が目標の実現を目指して、総力を結集してまいります。

「お取引先の成長なくして当行の成長なし」を合言葉に、「対話力」を強化して“熟知”を深め、新しい価値観をお客さまと共有し、**「共存共栄」の深化を図ることが当行の「NEXT STAGE」**であると位置づけ、全行をあげて今次長期経営計画を展開し、目標達成に取り組んでまいる所存です。

近江八幡市安土町･西の湖でのヨシ刈りボランティア